水戸教育事務所だより

すぐ寄り添う事務所～「転ばぬ先の杖」として～

第　6　号
2023年6月28日

令和５年度道徳教育パワーアップ研究協議会　＜６月５日（月）於：県教育研修センター＞

これから求められる道徳教育及び道徳科の指導の充実

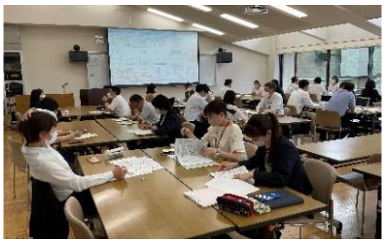
各市町村の道徳教育推進教師と各市町村教育委員会の道徳教育担当指導主事が参加して開催された研究協議会の概要と参加者の感想を紹介します。今後は、参加者が中心となり、各市町村において研修内容を伝達していくことで、各学校においても、道徳科における「考え、議論する道徳」への質的転換の推進や道徳教育の充実を図っていきましょう。

1　講演「道徳教育マネジメント」（赤堀博行　帝京大学教授）

道徳の特別の教科化の経緯、教育活動全体で行う道徳教育（①学校の**道徳教育の目標**を明確にする　②学校の**重点内容項目**を明確にする　③学校の**重点内容項目に係る具体的な指導の機会、時期の明確化**　④学校の**道徳教育の全体計画及び別葉の作成**）、道徳科の特質、道徳科の評価の考え方について、具体例を基に丁寧にお話をいただいた。

（教育情報ネットワーク＞市町村立学校向けポータルサイト「道徳のページ」内に９月まで資料掲載）

2　グループ協議「授業動画を活用した研修」



文部科学省作成の授業動画（道徳教育アーカイブ内掲載）を**「考え、議論する道徳」（アウトプット）の視点から視聴**し、工夫点、改善点について協議した。「問題意識をもつ」「自分との関わりで考える」「多面的・多角的に考える」「自らを振り返る」「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」「学びの蓄積」といった学びの過程のそれぞれの場面でどのような工夫が見られるか、ＩＣＴの活用とも合わせて考えた。

【参加者の感想】

○　重点内容項目は学校の実態に合わせて学校で独自に決めていくことを再認識しました。別葉等を見直して学校全体で道徳教育を推進してきたいです。

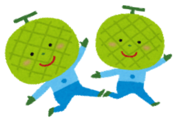
○　道徳教育の大切さを改めて知るとともに、普段から自校の重点内容項目を意識して指導していくことで、より効果的な指導へつながることが分かりました。

○　授業動画の中で授業者の先生は、周りにどう思われるか気にするという児童の実態とできるだけ本音で話してほしいという自分の思いから、ＩＣＴ活用が有効であると考え、多様な意見の可視化、共有・比較の活性化につなげ、多面的・多角的に考えられるよう工夫していました。

○　ＩＣＴ活用ありきではなく、他者の意見や評価に左右されない点や全体の前での発表が必須ではない点等、ＩＣＴの特性を踏まえて活用することが重要だと思いました。

春夏冬話（あきないばなし）

季節の風を感じながら



茨城県産メロンは今が旬の季節。６月のある休日に、水戸市の千波湖で行われた「茨城メロンメロンラン水戸偕楽園」というイベントに参加した。このイベントは、千波湖畔を駆け抜けるマラソン大会であり、走路の途中に「給水所」ではなく「給メロン所」が置かれているのである。参加者が、おいしいメロンやメロンヨーグルトジュースを味わい、早く走るよりもたくさん食べること（？）を目指して、季節の風を感じつつのんびりと走り通すというものである。当日は、時おり小雨が降りしきる中での開催ではあったが、無事完走した後には、気分晴れ晴れと爽快感・満足感（腹一杯で）を味わうことができた。主催者によると、この大会もコロナ禍のため現地開催ができるのは４年ぶりということであった。悪天候にも関わらず、大会を支え、走路で一人一人に明るく声援を送り続けてくれた多くのボランティアスタッフの方々に感謝したい。

さて、新型コロナウィルスの感染症法上の位置付けが５類とされてから１カ月が経過した。学校では、多くの制限が緩和される中、行事を含めた学習活動について工夫が加えられながら、従来の形を見せつつあるものと思われる。マスクを気にせず、梅雨空を吹き飛ばすような笑顔で活気あふれる表情で活動したり、対面で楽しく給食の時間を過ごしたりする子供たちの姿が目に浮かぶ。湿度が高くうっとうしい天気が続くこの時期でも楽しく過ごせるよう、自分なりのリフレッシュ＆リラックスを取り入れ、メリハリのある生活を心がけながら過ごしていきたいと思う。（by　Ｔ・Ｈ）